

令和時代の幕明け——福祉の充実した社会を共に創っていきましょう

今

月1日より「令和」時代に突入いたしました。新たな時代を迎えるなか、全国老人福祉施設協議会は、人口減少高齢社会日本における高齢者福祉のリーダーとして、施設が福祉の拠点となり安心社会を

創っていく存在となることを期待されています。そのためにも、老協ビジョン2035の達成に向けて、これからも会員施設の皆さまとともに歩んでいきたいと思っています。

福祉の現場において、その中心は、人間です。「人が困っていることに気がつき、手を差し伸べる」

これが福祉の本質的な姿だと思っています。福祉の本質を少ない担い手と限られた財源でどのように実現するのか、それが我々には問われています。

そのためには、第一に、担い手が働きやすく、働きがいのある職場環境を創りましょう。福祉の担い手は、多様です。妊娠出産をする女性、子育て中の

人、親の介護が必要な人、高齢者、文化的背景の異なる外国人といった多様な人たちが介護の現場を支えています。

まず、腰痛防止のための機械や、便利に報連相ができ、多少日本語が不自由でも簡単に情報共有ができるICTシステム、夜間見守りセンサー等を導入し、介護現場を高度化させることで、柔軟性が高く、少ない人手でも質の高いヒューマンサービスを提供できる職場環境を作っていきます。このような高度化を進め、施設運営を助けられるように私も国に一生懸命働きかけていきます。

第二に、地域の福祉拠点として施設が活躍する社会を創りましょう。施設にはさまざまな福祉のプロフェッショナルが働いています。それぞれの専門性を高め合い、協働して質の高い福祉を提供できる環境を創りましょう。「新たな処遇改善」は施設で多様な職種に対して配分することができるようになりました。一方で、その対象から外れているケアマネジャーの処遇改善を最優先に求めています。

第三に、施設が、ひとりも人を孤立させない福祉の網目が広がる魅力的な地域社会を創るためのハブ機能を果たそうではありませんか。これから多死社会が進みます。国の制度は、在宅での看取りを進める方向性です。施設が、自施設内での看取りを進めるだけではなく、地域内の在宅での看取りをサポートする体制を整えましょう。しかし、看取りを行うには、人材育成、医療看護介護の連携、リスクマネジメントの仕組みなどが急務です。全国老協として会員をサポートしていく体制を強化していくことが期待されます。

そして、これらの取り組みのデータを蓄積することで、より良い福祉現場に根ざした政策立案を行うことができます。

美しい響きを持った「令和」時代。この国に生まれて良かったと思える福祉の充実した社会を皆さんと一緒に創っていききたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



さらに詳しく知りたい方は、ホームページにアクセスしてください。

そのだ修光

検索

または、<https://sonodashuko.com/>



公式LINEアカウント：

<https://page.line.me/psd1500s>

LINEの「友だち追加」より

友だち登録をお願いします！

